

家畜飼養管理Ⅱ

講師名	山口 直己	実務経験等	農業研究センター、農業改良普及センターでの勤務経験を活かし、乳牛の搾乳、改良と先進技術、飼養管理、牛群検定等に関する講義を担当している。
-----	-------	-------	--

科目区分	学科・経営科	必修・選択 (必修、自由)区分	履修 学年	開講 学期	標準 時間	単位数
畜産学科・専門科目	畜産・酪農	必修	2	通年	75	5
使用教科書・副教材	2012年改訂版 乳牛管理の基礎と応用: 柏村文郎他編著 (株)デーリィ・ジャパン社 日本飼養標準・乳牛(2017年版): 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構編					
授業の目的	乳牛の生理特性、成長、繁殖、泌乳と密接に関連する合理的飼養管理技術について理解し、酪農経営管理能力を習得する。					
授業の到達目標	乳牛の合理的な飼養管理技術について知識を習得し、それらの技術に基づいた経営管理ができるようになる。					

月	学習項目	学習事項	時間	授業 形式	備考 (提出物等)
4月	放牧管理技術	飼料及び放牧技術について理解する	8	講義	
	個体管理技術	牛の個体管理と畜産共進会について学ぶ	6	実習	外部講師
5月	飼料給与	飼料設計(計算)について理解する	10	講義	
6月	衛生的搾乳技術 家畜の取引	泌乳生理について理解を深める	4	講義	
		衛生的な搾乳と基本技術について理解を深める	4	講義 実習	レポート
		乳用牛の取引について学ぶ	8	事例 研究	レポート
7月	ICTの活用	ICTを活用した精密飼養管理技術について学ぶ	4	講義	
8月	農場HACCP	農場HACCPの実践、審査について学ぶ	2	講義	
9月	乳牛の行動と施設	牛群の行動及び牛舎施設について理解する	4	講義	
10月 ~12月	繁殖管理技術	性成熟と繁殖管理、人工授精技術について理解する	16	講義	
1月	牛舎設計	季節に応じた管理の特徴と牛舎設計について理解を深める	10	講義 演習	レポート (後期評価)
		合計	76	時間	

成績評価の方式(評価項目、評価の観点、割合等)

定期試験、学習態度、出席状況及びレポート(事例研等)の内容により評価する。

評価割合: 前期 筆記試験70%、平常点30%(レポート、学習態度、出席状況)

後期 レポート70%、平常点30%(学習態度、出席状況)

履修に当たっての留意点等

受講に際しては教科書、参考書等に目を通しておくことが望ましい。授業は教科書に沿って行うが、項目が入れ替わることもあるので注意すること。授業形態は主に板書をして行う。
農場での授業、校外事例研究の際は事前に連絡するが、衛生管理(服装等)に十分注意すること。